

わおとと

北海道算数数学教育会
小学校部会 札幌支部
平成17(2005)年9月30日発行
No. 126

夏の学習会を終えて

北数教札幌支部副支部長

札幌市立手稲西小学校長 池田 英司

気温の変動が少なく暑い日が続いた『じわり猛暑』の札幌、甲子園では駒苦の大活躍。まさに暑い・熱い夏、北数教の夏の学習会が行われた。

1. 実践に学ぶ、実績に学ぶ、情熱に学ぶ

教頭職として学校管理等に多忙で、月例会の出席も叶わない近野・飯塚・丸田先生に「発達段階と算数授業」について話をしてくれた。

太平南小学校 近野豊教頭は、『低学年の算数指導で大切にしたいこと』と題して、(1)学び方づくり(2)問題を見出させる(3)つまずきを生かす(4)数学的なコミュニケーションを(5)つぶやきを大切に(6)数量の豊かな感覚を、の視点から話をしてくれた。

かつて近野学級の1年生は挨拶ではなく、先生の『準備は?』の言葉に指を上げ学習を始める。

<1本指>何の教科の学習をするのかが分かる

<2本指>何の単元の勉強をするのかが分かる

<3本指>前の時間の勉強の内容が分かる

<4本指>今日の勉強の内容(問い)が分かる

子供が自ら算数を学ぶ学び方、低学年の子供たちが楽しく、確かに学びとっていく算数学級経営を語ってくれた。

篠路西小学校 飯塚泰久教頭は、『中学年の発達段階と算数授業』と題して、<生きる力><学力>を今一度問い直すことから「数学的な考え方・学び方を自分たちで創り出す授業」の重要性をプレゼンテーションしてくれた。中学年の子供たちの発達特性をふまえての、(1)数学的な考え方、態度を育てる発問、(2)考え方を伸ばすノート指導、(3)教師の言葉かけはどうあればよいかを、問題作りの実習を通して明らかにしてくれた。

我々北数教会員も執筆している大久保和義氏、山本哲雄氏編著の『子供が自ら考えを発展させる算数の研究授業～問題解決力を高める発問の仕方～』の理論・実践事例などから、発問の大切さを問うてくれた。

新川中央小学校 丸田俊行教頭は、『高学年における算数授業の一考察』と題し、かつて日新小6年、丸田学級の子供たちのノートから、高学年の問題解決学習のあり方を語ってくれた。「先生に問題解決学習が落ちているのか」「算数教師にとっての基礎基本とは」「自ら学びを創る学習での教師とは」と(辛口の)切り口から『高学年の算数、高学年の問題解決学習こそ面白い』と主張した。

私たちは、子供たちの発達段階に応じた問題解決学習を展開し、一人一人の問題解決能力を確かに・豊かに育成することを目指している。

それは、教師が数学的な考え方、学び方の育成にしっかりと目を向け、子供が自ら創り出す学習にどう具体化していくのかという我々教師の資質・力量が問われていることでもある。

算数仲間として切磋し学びあっている私たちに、あらためて刺激を与えてくれた学習会であった。

2. 札幌支部研究のよさを全道に発信して

10月には、3ヵ年研究のまとめとして、札幌支部研究の具現化の姿を、二条小学校の子供たちが、輝く笑顔で現してくれる。

本学習会を更なるステップとして、私たちの算数授業への熱き思いを全道に発信していこう。

近野先生、飯塚先生、丸田先生、熱い夏、熱い学習会を本当にありがとう。